

プレカット ニュース

一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会

東京都千代田区永田町2丁目4番3号永田町ビル6階

TEL 03 (3580) 3215 FAX 03 (3580) 3226

<http://www.precut-kyokai.com>

新年のご挨拶

年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。皆様方には、旧年中は当協会の事業運営に格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。3月の東日本大震災、原発事故、8、9月の台風・豪雨災害の被災地の皆様にご心からお見舞い申し上げます、早期の復旧、復興を祈念申し上げます。

さて、我が国の景気の動向は、東日本大震災の影響、戦後最高水準になったになった円相場、米国、欧州での金融不安の影響もあって、不安定かつ先行き不透明で閉塞感の強い状況が続きました。

住宅着工数は、一昨年からの各般の予算、税制の優遇措置の効果もあって夏までは、前年同時期に比べ増加基調で推移しておりましたが、秋以降は減速化し、年間では平成22年の実績を下回ることが確実な情勢で、依然として明るい兆しが見いだせない一年でありました。このようなことから、政府においては、三次に亘る補正予算において大震災、災害関連対策を措置され、特に、12月の第三次補正予算においては、住宅エコポイントやフラット35Sの優遇金利の復活等がありました。

住宅産業、木材産業の動きを見ますと、公共建築物等木材利用促進法の施行や森林・林業再生プランの実現に向けた取り組みが本格的に始まっています。今後、これらの実効性を確保するため、木材供給サイド、住宅産業等利用サイドそれぞれの主体的な取り組みにより、住宅着工の回復、しいてはプレカット加工業の業況改善が図られていくものと確信しております。

当協会は、昭和60年の創立以来、品質の確かなプレカット部材の生産、供給を目的として会員工場のプレカット加工技術の向上を図るため活動を行ってきました。今般の住宅産業、プレカット加工業を取り巻く環境の変化に対して、会員の皆様への業務・技術支援を充実していくため、昨年4月から一般社団法人全国木造住宅機械プレカット協会に組織替えを行いました。

このような当協会の組織体制の整備とともに、国産材の利用促進を初めとした木造建築を取り巻く環境の変化等に機動的に対応し、工務店、設計事務所等との連携を図りつつ、安全・安心な住環境の創造で顧客満足の得られるような木造住宅の提供ができるよう努力する所存であります。

本年が住宅産業・木材産業にとって飛躍の年になり、皆様方にとってすばらしい一年となりますように祈念申し上げますとともに、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます、新年のご挨拶といたします。



会長 櫻井 秀弥

第46回全国木材産業振興大会開催される

第46回全国木材産業振興大会は、平成23年10月19日に盛岡市で皆川芳嗣林野庁長官、達増拓也岩手県知事はじめ多数のご来賓の出席のもとで「新たな木材利用への挑戦で木材産業の創造的再興～森のめぐみを活かす大震災復興～」をメインテーマにして開催されました。

大会では、小野田富男岩手県木材産業協同組合理事長の歓迎のあいさつ、並木瑛夫全木連会長による大会会長あいさつに続き出席したご来賓から祝辞がありました。

次いで大会宣言の決議があり、①東日本大震災の復旧・復興のため、木材の需給安定と地域の木材を活かした支援対策の充実に取り組もう。②住生活空間、公共建築物、商工業施設などへの木材・国産材利用の大幅拡大、木質バイオマス利用の促進に取り組もう。③木材産業の活性化のため、経済対策、中小企業対策などの充実強化に取り組もう。④安全・安心のJAS製品、合法木材・木製品、乾燥材などの供給体制の整備や林業・木材産業の担い手の育成確保に取り組もう。⑤再生可能な「木材」の利用推進のための税制度・エコポイント制度などの充実・導入に取り組もう。が満場一致で採択されました。

プレカットCAD技術者支援対策の検討が始まる

CADオペレーターは、工務店等から平面図、立面図等で受注した物件を発注者と調整しつつプレカット加工CADに入力して加工図を作成していますが、これは実態として軸組木造住宅の架構を担っていることであり、安全・安心の木造住宅を供給するために重要な役割を果たしているといえます。しかし、制度的には、CADオペレーターは資格不問であることから、その役割は必ずしも明確化されているとはいえない状況にあります。このため、当協会としては、CADオペレーターの技術的インセンティブの向上や木造住宅生産での情報生成の担い手として、木構造、木材に関する知識、情報生成、実務能力、法的理解等についての研修等を通じてその位置づけの充実・強化を図ることとして、協会内にプレカットCAD技術者認定検討部会（委員長：蟹澤 宏剛 芝浦工業大学教授）を設置し、そのあり方について検討を開始しました（第1回部会：11月9日、第2回部会：12月12日）。

当協会では、平成23年8月に「軸組工法住宅機械プレカット部材製造マニュアル」を作成したところですが、これに加えて、今後、CADオペレーターに対する技術支援の充実を図ることとしています。

軽油引取税課税免除が3年延長

平成24年度税制改正大綱が、平成23年12月10日に閣議決定されました。主な木材産業、住宅関係分は次のとおりです。

○木材産業関係では、①農林漁業者等の軽油取引税の課税控除の特例（1キロリットル当たり3万2000円免除）は適用期限を3年延長。②中小企業者等が機械等を取得した場合の特別償却（30%）または税額の特別控除（7%）は適用期限を2年延長。

○住宅関係では、暮らしの安全・安心確保関連として、①新築住宅に係る固定資産税の減額措置（戸建て3年間、マンション5年間1/2）を2年間延長。②土地・住宅に係る不動産取得税の軽減措置の3年間延長。③認定長期優良住宅の普及促進のための特例措置を2年間延長。④住宅取得等資金に係る贈与税の非課税枠を充実し3年間延長。また、省エネ・グリーン化の推進として、①認定省得エネ住宅について住宅ローン減税制度の控除対象借入れ限度額の引き上げの創設。②所有権保存登記、所有権移転登記に係る軽減税率の創設。

協会会員工場基礎調査結果について（第3回）

—— 年間総生産量・AQ製品生産量調べ ——

調査対象年月：平成22年12月

調査対象工場数：45工場

	10,000坪未満	10,000坪以上 20,000坪未満	20,000坪以上 30,000坪未満	30,000坪以上 50,000坪未満	50,000坪以上	合計
総生産量 (単位：100坪)	1、 8、 30、 39、 56、 57、 83、 90、 91、 96	101、 110、 111、 120、 122、 127、 136、 142、 143、 172、 180、 192	209、 250、 259、 267、 272、 283、 284	300、 320、 330、 353、 393、 400、 410、 432、 460、 464	500、 755、 1,160、 1,225、 1,478、 3,665	16,676
(平均)	(55.1)	(138.0)	(260.6)	(386.2)	(1463.8)	(370.6)
AQ製品生産量 (単位：100坪)	0、 0、 0、 0、 0、 1、 1、 17、 36、 45	0、 0、 0、 0、 0、 0、 0、 0、 0、 30、 110、 120	0、 0、 0、 23、 32、 65、 85	0、 0、 0、 0、 0、 35、 38、 86、 102、 120	0、 0、 9、 110、 147、 220	1,432
(平均)	(10.0)	(21.7)	(29.3)	(38.1)	(81.0)	(31.8)
AQ製品生産比率	18.2%	15.7%	11.2%	9.9%	5.5%	8.6%

◇簡単なコメント

- 1 会員45工場を対象とした調査によると、平成22年の1工場当り年間平均生産量は、37,060坪で、1棟当たり40坪換算すると927棟に匹敵する。前年の平均生産量は、1工場当り36,230坪だったので、前年に比べ僅かに増加した。生産規模別に平均生産量の動向をみると、50,000坪未満の各階層では前年と比較して大きな変化は見られなかったが、50,000坪以上の階層の工場では平均生産量が約5割増加しており、生産の主体が大規模工場へ移動する傾向は益々強まっているように見られる。
- 2 総生産量に占めるAQ製品の生産比率は8.6%で前年に比べて1.4ポイント低下した。これは、AQ製品の生産量が、横ばいで推移している中で、全体の生産量が増加基調であったことが原因のひとつと思われるが、プレカット工場の生産工程の低コスト化の動きにより、AQ製品の生産量に影響していることがうかがえる。

プレカット業況調査(平成23年11月期)

一般社団法人 全国木造住宅機械プレカット協会調べ〔回答率：56%〕

設 問	回答率 (%)			DI	前回 DI
	(1)	(2)	(3)		
1-1 今月の受注額は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	12	64	24	-12	+57
1-2 3ヶ月後の受注額をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	3	50	47	-44	-11
2-1 貴社の坪あたり平均総加工単価はいくらですか。	答：6,250円(対前回調査-80円)				
3-1 今月の製品加工単価は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	91	9	-9	+12
3-2 3ヶ月後の製品加工単価をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	0	82	18	-18	-7
4-1 今月の資材(製品)入手状況は如何ですか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	26	74	0	+26	+20
4-2 3ヶ月後の資材(製品)入手状況をどう予測しますか。 (1)容易 (2)変わらず (3)困難	32	68	0	+32	+15
5-1 今月の収益は3ヶ月前と比べて如何ですか。 (1)良い(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪い(5%以上の減)	9	62	29	-20	+23
5-2 3ヶ月後の収益をどう予測しますか。 (1)好転(5%以上の伸び) (2)変わらず(±5%未満) (3)悪化(5%以上の減)	6	53	41	-35	-18

* DI = (1)の% - (3)の%、+の数値が大きいほど好況、-の数値が大きいほど不況。

* 前回調査：平成23年8月

◇簡単なコメント

各地のプレカット工場の受注額、収益のDIは、ともにマイナスになり、加工単価も下落した。資材入手状況は、前回に引き続き品薄感はなく、3ヶ月後においても引き続き入手容易な状況が続くと予測されている。冬場の不需要期を迎えるが、第三次補正予算で住宅エコポイントとフラット35Sの優遇金利が一部復活しているので、これらが住宅産業、プレカット加工業の業況に与える影響に注目したい。

1. 受注額のDIは-12で前回調査時(平成23年8月期)の+57より大きく後退している。また、3ヶ月後の予測は、現在と変わらずとする回答は50%あるものの、DIは-44で、受注額の減少傾向は強まると予測される。
2. 平均総加工単価は6,250円で3か月前に比べて-80円になった。製品加工単価のDIは-9で加工単価の下落は裏付けられるが、3ヶ月後の予測も-18で低迷傾向は続くと思われる。
3. 資材の入手状況は、+26、また、3ヶ月後は+32で、ともに入手が困難とする回答はなく、資材の入手容易な状況が続くとみられる。
4. 3ヶ月前と比べた収益のDIは-20に低下、また、3ヶ月後の予測は-35で冬場の不需要期を反映するものとみられる。